

プラ再生の輪を可視化

旭化成など

「ブループラスチック」プロジェクト

旭化成は、資源循環社会の実現に向けたデジタルプラットフォームの構築を目指し、日本アイ・ピー・エム（以下「日本IBM」）の技術支援を受けた「ブルー・プラスチック

チェーン技術のトレースビリティ（追跡可能性）によって来歴を確認することができ

「ブルー・プラスチック」プロジェクトを
発足させ、2022年3月末までにプロトタイプを用いた実証実験を開始することになった。同「プロトタイプ」は、実証実験のために設計されたもので、再生プラスチック製品におけるリサイクル素材の使用率の表示や、リサイクルチェーンの関与企業の可視化から、消費者の行動変容の促進を
目指し、企業と一般消費者の使用も想定し開発している。消費者はスマートフォンのカメラを使い、再生プラスチック製品に印字されたQRコードなどを読み取ることで、プロ

旭化成により発足した「ブルー・プラスチック」プロジェクトは、IBM Cloud上で稼働する、日本IBMのブロックチェーン技術を活用することでデジタルプラットフォームの構築を目指す他、ブランドオーナーの立場からライオン、成型と最終製品化の各工程を専門とするメビウスパッケージング、リサイクルメーカーの立場から富山環境整備が協力する。リサイクルチェーンのメンバーが全てそろって開発に協力していることが特徴という。



「プロトタイプ」消費者向けアプリケーション